

子が気になる行動…ボタン一つで録画

発達障害 撮って支援

発達障害のある子どもの気になる行動だけ撮影し、動画をクラウド上に記録する。そんなアプリを新潟県内の療育施設、大学、企業が開発している。子どもの通う施設の職員と保護者、専門家が子どもに関する情報を共有し、適切な支援につなげる狙い。AI（人工知能）を用いた自動録画も近く実現しそうだ。



2020年6月26日(金)
09:54:50



2020年6月25日(木)
09:54:00



2020年6月23日(火)



2020年6月23日(火)

アプリを使って撮影した動画の一面画面。日時も記録されている。ロレムイブサム提供

動画共有アプリ 療育施設など開発

「クレヨンのふたを開けます」。指導員の声に、座っていた4人の幼児が一斉に動き出す。ただ、1人だけは反応がなく、促されて初めて動き始めた。

40秒ほどの短い動画。これは、アプリ開発に加わっている新潟市中央区の療育教室で今月撮影されたものだ。教室が見渡せる場所にアプリが入ったスマートフォンを置き、幼児の気になる行動があれば指導員がエ

「クロヨンのふたを開けます」。指導員の声に、座っていた4人の幼児が一斉に動き出す。ただ、1人だけは反応がなく、促されて初めて動き始めた。

アプリの利点を説明する。アプリ開発には、ソフトウェア開発会社・ロレムイブサム（新潟県長岡市）と長岡技術科学大（同市）の永森正仁助教（教育工学）も参加。撮影・保存した動画のファイルに説明の文章を書き込む機能もあり、当時の子どもの状況を保護者にも分かりやすく伝えられるという。

この教室では以前から、子どもの様子を撮影して支援を検討する際の参考にしてきた。しかし、気になる行動の時に絞って撮影する機能がなく、動画編集にかかる膨大な手間が難点だった。昨年12月からアプリの実証実験をしている長沢正樹・新潟大大学院教授（特別支援教育）は「問題行動前の子どもの状況や、行動後の職員の対応が無駄なく記録される。効率よく支援の改善につなげられる」と

アプリを使って記録した子どもの動画をパソコンで見ながら、新潟大大学院の長沢正樹教授（左）が療育教室の所長に助言していた13日、新潟市中央区、高浜行人撮影

アプリを使って記録した子どもの動画をパソコンで見ながら、新潟大大学院の長沢正樹教授（左）が療育教室の所長に助言していた13日、新潟市中央区、高浜行人撮影



アプリを使って記録した子どもの動画をパソコンで見ながら、新潟大大学院の長沢正樹教授（左）が療育教室の所長に助言していた13日、新潟市中央区、高浜行人撮影